

前書き

人々は昔から、宇宙と生命の神秘や人間と自然界の関係、人類の生存様式などについて探求してきました。伝統的な中華文化は「天人合一」の理念を尊崇し、天の時、地の利、人の和を重んじ、人間と自然界の調和を追求していました。「真・善・忍」は宇宙と自然界の法則であり、人類道徳の基礎です。人類社会において自由と平和の源にもなるものです。

多くの芸術家にとって、芸術は芸術そのものに限らず、真理を伝える手段として、人生の真の意義への探求、神への讃美、善悪正邪を表現するものです。その作品は人の歓心を得るものではなく、人々をより高い智慧と真理の領域へ導いていくのです。世に永遠に残る芸術作品は、時間と空間を超える美と内在的価値を持ち、人の心を浄化します。

「真善忍国際美術展」の作品を創作した芸術家たちは、それぞれ異なる生い立ちを背景にしていますが、彼らは法輪大法（「真・善・忍」の理念に基づき、心身を共に鍛え、簡単でゆったりとした動作と自分の心を修める修煉法）を修煉することによって身体の健康と精神面の昇華を得られました。さらに宇宙と人生の真意について理解を深め、長年求めていた生命と芸術への探求の答えも得ていました。彼らは生命に対する理解、自分たちの体験、「真・善・忍」を实践した人々の身に起きている事を、作品を通して表現し、「真・善・忍」へ向かう道程を世に示しました。

この中に、人間の信仰、自由、尊厳が踏みにじられたとき、「真・善・忍」を堅持し、大いなる善の心を持ちながら、迫害に敢然と立ち向かい、平和的かつ勇敢な人々の姿を表現する作品もあります。

「真善忍国際美術展」は、2004年以來、米国・カナダ・イギリス・フランス・オーストラリア・台湾を含む世界40数カ国と地域で200回以上開催され、NYの権威ある「ナショナル・アート・クラブ」で最多の入場者数を記録しました。